

観点別評価マニュアル

平成29年 4月21日(金)
教 務 部

1 評価

(1) 目的

- ・「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る。
- ・根拠のある評価をすることにより、次の指導の目標を設定しやすくする。
- ・生徒自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにする。
- ・保護者への説明責任を果たす。

(2) 次期学習指導要領における評価

- ・生徒の学習状況を評価するために、教師は、個々の授業のねらいをどこまでどのように達成したかだけでなく、生徒一人一人が、前の学びからどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを捉えていくことが必要である。
- ・学習評価については、子供の学びの評価にとどまらず、「カリキュラム・マネジメント」の中で、教育課程や学習・指導方法の評価と結び付け、子供たちの学びに関わる学習評価の改善、更に教育課程や学習・指導の改善に発展・展開させ、授業改善及び組織運営の改善に向けた学校教育全体のサイクルに位置付けていくことが必要である。

(3) 評価の観点

単元の指導目標に基づいて、評価規準を設定して「学習評価補助簿」に記載し、単元終了時に3段階で評価する。現行の観点別評価は次の4観点であるが、次期学習指導要領の改訂内容を答申した中教審答申では3観点到改訂される。3観点で評価することが今後の方法になるため、3観点で評価することとする。 ※保護者配付はしない。

評価の観点（次期学習指導要領）※	評価の観点（現行の学習指導要領）
・「知識・技能」 ・「思考・判断・表現」 ・「主体的に学習に取り組む態度」	・「関心・意欲・態度」 ・「思考・判断・表現」 ・「技能」 ・「知識・理解」

学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」、総括的に捉える「評定」とを、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施する。

今回の改訂においては、全ての教科等において、教育目標や内容を、資質・能力の三つの柱に基づき再整理することとしている。これは、資質・能力の育成を目指して「目標に準拠した評価」を実質化するための取組でもある。

今後、小・中学校を中心に定着してきたこれまでの学習評価の成果を踏まえつつ、目標に準拠した評価を更に進めていくため、こうした教育目標や内容の再整理を踏まえて、観点別評価については、目標に準拠した評価の実質化や、教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、小・中・高等学校の各教科を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理する。

(中教審答申 p 61)

各教科等の評価の観点のイメージ（案）

観点（例） ※具体的な観点の書きぶりは各教科等の特質を踏まえて検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ（例） ※具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討	（例） 〇〇を理解している／ 〇〇の知識を身に付けている 〇〇することができる／ 〇〇の技能を身に付けている	（例） 各教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方を 用いて探求することを通 じて、考えたり判断し たり表現したりしている	（例） 主体的に知識・技能を 身に付けたり、思考・ 判断・表現をしようと したりしている

（中教審答申、平成28年）※

※ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日、中央教育審議会）

観点	説明	評価方法の留意点
知識・技能	「知識」は各教科において修得すべき知識や概念等をどの程度身に着けているか評価するものである。 「技能」は各教科において、修得すべき技能をどの程度身につけているかを評価するものである。 ※「技能」とは、一定の目的を達するための行動の仕方であり、読み・書き・計算をはじめとして、観察や実験、資料の活用、運動、器楽、絵画・工作等の表現を含めた各種技能を指す。	「知識」は知識の量を評価するのではなく、その理解の深まりも含め、評価する。「知識・理解」の評価では、ペーパーテスト法を用いることが多いが、文章記述等を取り入れた自己評価や相互評価も併せて活用していくことが考えられる。 「技能」のうち、読み・書き、作文、計算、資料活用の評価では、ペーパーテストや作品、プリント、ワークシート、ノートなどを活用する。 実験や観察、運動技能、製作等の評価では、妥当性のあるチェックリストを用いたり、結果だけでなく途中の製作過程等も活用したりすることが大切である。 また、ポートフォリオ法*やパフォーマンス評価*等を積極的に活用していくことも考えられる。 （例） ・数学で式やグラフが描ける。 ・実験・実習・実技の基本的な技術を習得する。 ・観察・実験の過程や結果を的確に記録し整理する。

※ ポートフォリオ法

ポートフォリオとは、単なる学習ファイルづくりではなく、「自己評価」、「相互評価」、「生徒自身による作品の選択とそれを再編成する活動」を行って、生徒の学習活動の過程や成果などの記録作品を計画的に集めたものである。ポートフォリオ法は、このポートフォリオを用いて、学びのプロセスや成果を長期的に評価する方法である。その際、生徒の自己評価を尊重しながら、生徒同士の相互評価、教師のコメントなども加えながら多面的に評価する。長期の指導計画を実施する際、思考力・判断力・表現力のように長期間かけてはぐくまれる能力の評価には有効な評価方法の1つである。

※ パフォーマンス評価

パフォーマンス評価は、一般的には習得した知識・技能を使いこなす能力を評価することである。評価の方法には、日常的な観察対話による評価、自由記述式の問題による筆記テスト、実技テストによる評価、パフォーマンス課題（完成 作品実演）による評価などが含まれる。

観点	説 明	評価方法の留意点
思考・ 判断・ 表現	各教科の知識や技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をどの程度身に付けているか評価するものである。 ※現行の学習指導要領での評価の観点「思考・判断」に「表現」を加え、「思考・判断・表現」としたのは、言語活動を中心とした活動や生徒の作品等と一体的に行うことを明確にしたためである。	教科内容について思考・判断を行うプロセスや結果をどのように表出しているかが評価の対象となる。各教科の知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、生徒の発表や討議、要約、説明、論述などの言語活動などを通じて評価する。そして、言語だけでなく、教科の特性に応じた表現に係る活動（例 観察・実験とレポートの作成）*を通じて学習過程の評価を行うことも必要である。 * 観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を式や図、グラフ等を用いて表現していることを評価すること、生徒の作品を通じて構想や設計に係る工夫を評価することなどが考えられる。 単に文章、表や図に整理して記録するなどの表面的な状況のみに着目することのないように留意する。 主な評価場面は、言語活動を取り入れた課題解決学習の場である。定期考査では、全国学力調査のような活用（発展）問題、実技教科では より良い作品作り、表現、活動となる。
主体的 に学習 に取り組 む態度	各教科の学習内容に関心をもち、自らの課題に取り組もうとする意欲や態度をどの程度身に付けているか評価するものである（学習習慣も含む）。	学習内容に対する取組状況を評価することを基本とする。具体的には、授業における発言や行動等の観察によって評価したり、ワークシートの作成・発表等の学習活動、努力の過程などを通して評価する。 授業中の挙手や発言の回数や「提出物の提出状況」などの表面的な状況のみに着目することのないように留意する。

2 評価規準と評価基準

(1) 評価規準（のり準）：criterion（クライテリオン）

指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたとはどのような状態になっていることなのかを具体的な生徒の姿として、「～ができる」「～が分かっている」というように、質的に設定されたものである。指導目標に照らして、学習の成果を質的にとらえたもの。

（評価規準の作成方法）

学習指導要領の内容を元に評価規準を作成する。本校では、「指導内容表」を参照する。
小学校社会科の例

（学習指導要領の内容）

A（社会的事象）について、次のこと（ア、イ、・・・）を **B（学習の仕方）**して調べ、
C（社会的事象の意味、特色、相互の関連など）を考えるようにする。



観 点	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に 取り組む態度
評 価 規 準	・ Cを理解している（知識）。 ・ Bして、Aについて必要な情報を集め、読み取っている（観察・資料活用の技能）。	・ ○と○を関連付け、Cを考え適切に表現している（社会的な思考・判断・表現）。	・ Aに関心をもち、それを意欲的に調べている。

単元名：「今金オリエンテーション」

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	- 学校の周りの地域や町の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物の場所と様子などを理解している。（キ） - 地域の様子は場所によって違いがあることを理解している。（ク） - 観点に基づいて観察や聞き取り調査を行ったり、地図や写真などの資料を活用したりして、学校の周りの地域や町の様子について必要な情報を集め、読み取っている。（オ） - 調べたことを主な地図記号や四方位などを用いて、絵地図や白地図などにまとめている。（カ）	- 学校の周りの地域や町の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。（ウ） - 土地利用の様子を地形的な条件や社会的な条件と関連付けたり、分布の様子を相互に比較したりして、地域の様子は場所によって違いがあることを考え適切に表現している。（エ）	- 学校の周りの地域や町の様子に関心をもつ。（ア） - 学校の周りの地域や町の様子の特徴やよさを考えようとしている。（イ）

※この単元は、二つの小単元（「学校の周りの地域の様子」、「今金町の様子」）で学習を行う。内容のまとまりを考えて、二つの小単元をア～クの評価に分けて評価する。

→小単元「学校の周りの地域の様子」～ア～カ、クの評価を行う。

小単元「今金町の様子」～イ、エ、オ、キ、クの評価を行う。

(2) 評価基準（もと準）：standard（スタンダード）

「80点以上はA」、「50点以上は合格」というように、各教科等の目標や内容に照らして、生徒の実現状況を観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的にとらえるものである。量的な尺度による評価である。ペーパーテストや観察により行う。

※今年度使用する「学習評価補助簿」の評価内容（単元の指導目標の表現を手直しして評価基準としたもの）について、3段階評価を行う。

評価段階の比較

3段階評価	4段階評価
できる・・・・・・・・A（80～ ）	十分達成できた・・・A（80～ ）
大体できる・・・・・・B（50～79）	ほぼ達成できた・・・B（50～79）
努力を要する・・・・・・C（ 0～49）	やや達成できた・・・C（20～49）
	努力を要する・・・D（ 0～19）

3 学習到達度の評価方法

- 当該単元の授業における終了段階に小テストを実施する。
- 授業中の問題や課題に対する解答状況の他、次の事項に基づいて評価する。
 - 課題の提出
 - 授業態度
 - 小テストの結果
- 授業中の問題や課題に対する解答状況の他、次の事項に基づいて評価する。
 - A（「できる。」）は8割以上の正答率（10回中8回以上の正答）
 - B（「大体できる。」）は5割以上で8割未満の正答率（10回中5回～7回の正答）
 - C（「努力を要する。」）は4割以下の正答率（10回中0回～4回の正答）

※当該単元の指導中に評価を行い、指導方法を修正したりする上でも、評価は重要であり、指導は評価と表裏一体の関係にあり、「指導ができる。」とは「生徒の到達度を正確に評価できている。」ということと同義である。

(4) 観点ごとの配点

各単元の指導目標を明確化させて、年間指導計画を作成する。その際、次の3観点を念頭に置いて指導目標を設定する。

○ 評価基準に対応する点数

3段階評価	配点に応じたカッティングポイント	点数
できる・・・A (80～)	$A = (0.8 \times \text{配点}) \sim \text{配点した数値}$	配点した数値
大体できる・・・B (50～79)	$B = (0.5 \times \text{配点}) \sim (0.7 \times \text{配点})$	$0.7 \times \text{配点}$
努力を要する・・・C (0～49)	$C = 0 \text{点} \sim (0.4 \times \text{配点})$	$0.4 \times \text{配点}$

○ 1単元について、3観点で評価する指導内容を設定する場合

観 点	配 点	評価基準と対応する点数		
・「主体的に学習に取り組む態度」	30点	A～30	B～21	C～12
・「思考・判断・表現」	35点	A～35	B～24.5	C～14
・「知識・技能」	35点	A～35	B～24.5	C～14
計	100点			

(Aさんの1単元の評価結果)

観 点	評価	点数
・「主体的に学習に取り組む態度」	A	30
・「思考・判断・表現」	B	24.5
・「知識・技能」	C	14
		68.5

※配点に応じたカッティングポイント

A～ $(0.8 \times \text{配点}) \sim \text{最大値 (配点した数値)}$

B～ $(0.5 \times \text{配点}) \sim (0.7 \times \text{配点})$

C～0点～ $(0.4 \times \text{配点})$

評価基準	配点25の場合	評価基準に対応する点数
A	20 ～ 25	25
B	12.5 ～ 17.5	17.5
C	0 ～ 10	10

Aには、20～25の点数の幅があるが、最大値を採用する。

(以下、同様)

(5) 評定

各教科等の目標や内容別の学習状況の評価をもとに、総合的な学習状況を示すものであり、3段階の評定を行う。

個別の指導計画における目標を特に高い程度に達成しているもの・・・A
個別の指導計画における目標を概ね達成しているもの・・・B
個別の指導計画における目標の達成が不十分で努力を要するもの・・・C

4 評価方法

(1) 定期考査（国語、数学）

学習成績の適正な評価の資料及び教師の学習指導の確認及び検討資料を得るため教務部が計画して、次の考査を行う。

【前 期】	1・2・3年	学力レディネステスト	4月
	1・2・3年	学力到達度テスト	7月
【後 期】	3年	学年末考査	1月
	1・2年	学年末考査	2月

※前期テストは学力の状況を把握し、学習グループを編成するとともに、指導目標を明確化するために実施する。

【問題の作成】

- (1) 同学年の同教科、科目の担当者が2人以上の場合は、問題作成にあたって担当者間で協議する。
- (2) 問題の難易度を考慮し、原則として平均達成率が60～70%となるように配慮する。
- (3) 考査の素点
定期考査における素点は、原則として100点法で表す。
- (4) 考査の処理
定期考査終了後、教科担当は速やかに採点等の処理をし、成績表の所定の欄に各得点を記して、提出日までに教務部に報告する。
- (5) 欠席者の処理
病気、その他正当と認められる理由により欠席した者については、原則として追考査を実施し、成績表には（ ）で記入し、評価の際の資料とする。さらにそれができない場合は、別の考査や平常点を参考にし、評価の際の資料とする。

(2) 評価の流れ

手 順	指導計画	評価計画
ステップ 1	各単元の指導目標を明確化させて、年間指導計画を作成する。その際、3観点から目標を設定する。	どの単元（題材）でどの観点を評価するのか、年間の評価計画を立てる。 ① 指導計画の指導目標に対応する観点のうち、1単元が100点となるように各観点到配点する。 ・単元①～「知識・技能」＋「思考・判断・表現」＋「主体的に学習に取り組む態度」 ※単元によっては観点到配点が変わる場合もある。 ② 評価・評定処理ソフトの単元ごとの配点表に配点を入力する。

手 順	指導計画	評価計画
ステップ 5		単元終了時に単元の指導目標への到達度を評価し、評価規準に照らして、次の数値を処理ソフトの単元の該当観点欄に入力する。 (配点25点の場合) ・「できる」 → 25点を入力する。 ・「大体できる」 → 17.5点を入力する。 ・「努力を要する」 → 10点を入力する。 併せて、「学習評価補助簿」の評価欄に評価結果を記入する。

※同一授業の場合、同じ基準で評価しなければならないが、学習習熟度別授業の場合は、学習グループごとに生徒の実態に即して設定した教科、科目の目標や内容に照らして評価するよう配慮する。同一教科、科目担当者が2人以上のときは合議によって評価する。

※評価は原則として各単元末に行う。

(3) 評定

- ① 評定は個別の指導計画の指導目標及び指導内容を踏まえ、各教科等の目標の達成度を考慮して3段階評価で評定する。その際には、「学習評価補助簿」の評価内容のうち、目標に対応する評価内容の評価結果を平均して、3段階評価（A～C）で評定を行う。端数は5捨6入する。

※エクセルファイルの各単元ごとに得点を入力すると、ABC評価のほか、総合評定（評定）が自動計算される。

個別の指導計画における目標を特に高い程度に達成しているもの・・・3
個別の指導計画における目標を概ね達成しているもの・・・2
個別の指導計画における目標の達成が不十分で努力を要するもの・・・1

評価方法の比較例

評価内容					5 捨 6 入	4 捨 5 入
内容①	内容②	内容③	内容④	内容⑤		
3	3	3	3	3	3	3
3	3	3	2	2.75	3	3
3	3	2	2	2.5	2	3
3	3	1	2	2.25	2	2
2	2	2	2	2	2	2
2	2	1	2	1.75	2	2
1	1	1	3	1.5	1	2
1	1	1	2	1.25	1	1

5捨6入の方が、数値のばらつきが減る。

できる・・・・・・ A（80～ ） → 3
 大体できる・・・・ B（50～79） → 2
 努力を要する・・・・ C（ 0～49） → 1

} で計算する。

処理ソフトの画面例

	テスト名	単 元	単 元	単 元	単 元	単 元	単 元	単 元			前 期 期 末 テ ス ト	学 力 テ ス ト ①	学 力 テ ス ト ②	合 計	得 点 率	A B C 評 価	ポ イ ン ト	評 定
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨								
配 点	知識・技能	35	35	35	35	35	35	35			30	30		305				
	思考・判断・表現	35	35	35	35	35	35	35			30	30		305				
	主体的に取り組む態度	30	30	30	30	30	30	30						210				
	計	100	100	100	100	100	100	100	0	0	60	60	0	820				
A さ ん	知識・技能	10	20	35	20	20	20	20			30	30		205	0.67	B	2	2
	思考・判断・表現	10	20	35	20	20	20	20			20	20		185	0.61	B	2	
	主体的に取り組む態度	30	30	30	30	30	30	30						210	1.00	A	3	
	計	50	70	100	70	70	70	70	0	0	50	50	0	600				

② 評価、評定の決定

教科担任は、各学期末に成績表に各生徒の評価または評定を記録する。教務部はそれに基づいて成績一覧表を作成し、成績会議において確認、協議の上、校長が決定する。なお保護者には通知表をもって連絡する。同一教科担当者が2人以上のときは合議によって評価・評定する。

学習評価補助簿（前期） 教科担任用

記入者氏名 _____

教科等	単元名	単元の指導目標	評価の観点	評価基準	生徒氏名								
					評価								
						観点別評価							
体育	サッカー	（知識） ○ 球技の特性、成り立ち、技術の名称（パス・ドリブル・シュート）や行い方を理解することができる。	知識・技能	（知識） ○ 球技の特性、成り立ち、関連して高まる体力、技術の名称や行い方を理解し、学習した具体例を挙げている。	A								
		（技能） ○ パスやドリブル・シュートの方法を理解し、体の動き方を身に付けることができる。		（技能） ○ 簡易化されたゲームで攻撃や防御のためのボール操作の動きを身に付けている。									
	○ 試合のルールを考えながら、チームで話し合い、効果的な作戦を立てることができる。	思考・判断・表現	○ ルールを考えながら、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。	B									
	○ 球技の学習に積極的に取り組むとともに分担した役割を果たすことができる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・よいプレーを認めようとしている。 ○ 分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。	A									

学習評価補助簿（前期） 学級担任用

生徒氏名 _____

教科等	単元	単元の指導目標	評価の観点	評価規準	評価	評定
体育	サッカー	（知識） ○ 球技の特性、成り立ち、技術の名称（パス・ドリブル・シュート）や行い方を理解することができる。	知識・技能	（知識） ○ 球技の特性、成り立ち、関連して高まる体力、技術の名称や行い方を理解し、学習した具体例を挙げている。	A	A
		（技能） ○ パスやドリブル・シュートの方法を理解し、体の動き方を身に付けることができる。		（技能） ○ 簡易化されたゲームで攻撃や防御のためのボール操作の動きを身に付けている。		
		○ 試合のルールを考えながら、チームで話し合い、効果的な作戦を立てることができる。	思考・判断・表現	○ ルールを考えながら、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。	B	
		○ 球技の学習に積極的に取り組むとともに分担した役割を果たすことができる。	主体的に学習に取り組む態度	○ 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・よいプレーを認めようとしている。 ○ 分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。	A	
		（知識） ○	知識・技能	（知識） ○		
		（技能） ○		（技能） ○		
		○	思考・判断・表現	○		
		○	主体的に学習に取り組む態度	○		

評価補助簿の作成ツールマニュアルver. 2

H29. 6 教務部

評価補助簿を作成するにあたって、単元の指導計画の様式～評価個表、評価一覧までを一気に組み上げるツールをExcelで作成しましたので、入力の方
を説明します。 **マニュアルのファイル： New_IMAYOU¥教務¥分掌別¥教務部¥2017(H29)→評価補助簿の作成ツールマニュアルver. 3**

【1 単元の指導計画様式】※色のついたセルのみ、入力して下さい！※

平成 ① 29 年度 3 学年 生活単元学習 単元指導計画		
単元名	②	
指導期間	平成 29 年 月 日 () ~ 平成 年 月 日 () 時間 分	
単元の指導目標	知識・技能 Ⅰ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「知識・技能」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	Ⅱ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「知識・技能」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	Ⅲ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「知識・技能」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	思考力・判断力・表現力 Ⅰ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「思考力・判断力・表現力」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	Ⅱ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「思考力・判断力・表現力」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	Ⅲ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「思考力・判断力・表現力」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	態度 Ⅰ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「主体的に学習に取り組む態度」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	Ⅱ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「主体的に学習に取り組む態度」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
	Ⅲ ※単元の指導目標を入力して下さい。この欄は「主体的に学習に取り組む態度」に類する目標を記載すると、あとあと便利です。	
③ 場所・学習集団	学習内容	教具等
4月29日	視覚覚察	④
2～4 校時	男女別	

①年度 学年 教科名等を入力します。

②単元名、指導期間を入力します。

③単元の指導目標を記載します。

その際、3観点

- 1 理解・技能
- 2 思考・判断・表現
- 3 態度

をふまえ、生徒の実態により必要に応じて

- I 上位または生徒の実態に依らない一斉指導
- II 中位
- III 下位

の3つの段階で設定します。
該当する欄に入力すると後で便利です。

(ⅡとⅢの欄は必要に応じて入力設定すればよく、全ての欄を使わなくてはならないというわけではありません。)

④単元の指導計画を入力します。

【2 評価補助簿 集約表】※色のついたセルのみ、入力して下さい！※

生活単元学習 学習評価補助簿		⑤ 前期	教科担任用	
		記入者氏名 ⑥ 岩城 研太		
単元の指導目標		⑦ 生徒氏名		
③		⑧		
I				
II				
III				

⑤前期か後期かを入力します。

⑥記入者氏名を入力します。

⑦生徒氏名を入力します。32名分まで対応しています
→生徒の個票にそれぞれ反映されます。

⑧ ③で入力した単元の指導目標が、シートに反映されているので入力不要です。文末を動作表現に変えて、評価規準として設定します。

【3 学習評価補助簿 生徒○】 補助簿の生徒個表です。

※単元の指導目標と評価規準は、③と⑧がシートに反映されているので、入力不要です。
修正は③と⑧の部分で行います。

生活単元学習 学習評価補助簿		前期	教科担任用	
		生徒④氏名 金子 巨喜		
単元の指導目標		評価規準		
③		⑧		
I			A	
II			⑨	
III				

⑨評価を入力します。

⑩評価を入力します。 ※評価は評価シートに表示するのでカットします。一覧からもカットしてあります。

★ 確認 ★
評価の根拠となるデータは、別途、
確実にしておいてください。
※「学習評価補助簿 生徒○」には、印刷されない部分に、評価のためのデータを記録する枠を作っています。

日付	評価資料	知識	技能	思考判断表現	態度	評価
H29.4.20						

【3 個人評価補助簿 集約表】生徒の評価一覧表です。

①～⑨が反映されており、評価の一覧表が完成しています。

生活単元学習										学習評価補助簿										前 期		教科担任用																							
																				↑「前」か「後」の字を入力してください。										記入者氏名		岩城 研太													
																				反映されるシート番号										①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
教科等	単元名	単元の指導目標 「1 単元の指導計画様式」で入力された単元の指導目標の欄から反映されます										評価の観点	評価規準										生徒氏名		金子 亘喜	内田 義文	小林 和幸	鐘ヶ江 真知	出村 朱美	竹花 健太	田中 博昭	矢倉 一	住谷 亮	中島 朋之	山本 拓郎	山田 みゆき	初山 小枝子	高田 のぞみ	中市 浩史	祐川 建一郎					
																									↓単元の指導計画で設定された目標を元に設定します！										観点別評価										
		・見学や体験を通して、社会生活を豊かにする知識と教養、公衆道徳を身に付ける。										知識	・見学や体験を通して、社会生活を豊かにする知識と教養、公衆道徳を身に付けている。										A	A	B	A	B	B	C	A	A	A	C	A	A	A	A	A							

各単元の評価はここで完了です。必ずファイルを上書き保存して下さい

保存すると、変更したデータが「評価・評定処理シート 評定算出用」に反映され、評定が自動的に算出されます。

平成 年度 学年 単元指導計画

単元名			指導期間	平成 年 月 日 () ～ 平成 年 月 日 ()	時間扱
単元の 指導目標	知識・技能	I			
		II			
		III			
	思考・判断・問題解決	I			
		II			
		III			
	態度	I			
		II			
		III			
日時	場所・学習集団	学習内容		教具等	
校時					
校時					
校時					

学習評価補助簿



期

教科担任用

↑「前」か「後」の字を入力してください。

反映されるシート番号

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

教科等	単元名	単元の指導目標 「1 単元の指導計画様式」で入力された単元の指導目標の欄から反映されます	評価の観点	評価規準	生徒氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
						評価															
					↓単元の指導計画で設定された目標を元に設定します↓																観点別
	I		知識・技能																		
	II		思考力・表現力・判断力																		
	III		主体的に学習に取り組む態度																		

学習評価補助簿

期

教科担任用

生徒①氏名

教科等	単元名	単元の指導目標 単元の指導計画で設定された目標をペーストします		評価の観点	評価規準	評価	評定
				知識・技能			
		I		知識・技能			
		II					
		III					
		I		表現・思考力			
		II					
		III					
		I		主体的に学習に取り組む態度			
		II					
		III					

(前期)																										ABC 評価	ポ イ ン ト	評 定
	テスト名	単元 ①	単元 ②	単元 ③	単元 ④	単元 ⑤	単元 ⑥	単元 ⑦	単元 ⑧	単元 ⑨	前期 期末 テスト	小テ スト ①	小テ スト ②	小テ スト ③	小テ スト ④	小テ スト ⑤	小テ スト ⑥	小テ スト ⑦	小テ スト ⑧	小テ スト ⑨	合計	得点率						
配点	知識・技能	35	35	35	35	35	35	35			30	30	30	30	30	30	30					455						
	思考・判断・表現	35	35	35	35	35	35	35			30	30	30	30	30	30	30					455						
	主体的に取り組む態度	30	30	30	30	30	30	30														210						
	計	100	100	100	100	100	100	100		0	0	60	60	60	60	60	60	60	0		0	1120						
Aさん	知識・技能																					0	0.00	C	1	1		
	思考・判断・表現																					0	0.00	C	1			
	主体的に取り組む態度																					0	0.00	C	1			
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								0	0						
Bさん	知識・技能																					0	0.00	C	1	1		
	思考・判断・表現																					0	0.00	C	1			
	主体的に取り組む態度																					0	0.00	C	1			
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								0	0						
Cさん	知識・技能																					0	0.00	C	1	1		
	思考・判断・表現																					0	0.00	C	1			
	主体的に取り組む態度																					0	0.00	C	1			
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								0	0						
Dさん	知識・技能																					0	0.00	C	1	1		
	思考・判断・表現																					0	0.00	C	1			
	主体的に取り組む態度																					0	0.00	C	1			
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								0	0						
Eさん	知識・技能																					0	0.00	C	1	1		
	思考・判断・表現																					0	0.00	C	1			
	主体的に取り組む態度																					0	0.00	C	1			
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								0	0						

(後期)																									
	テスト名	単元	単元	単元	単元	単元	単元	単元			後期 期末 テスト	小テ スト ①	小テ スト ②	小テ スト ③	小テ スト ④	小テ スト ⑤	小テ スト ⑥	小テ スト ⑦	小テ スト ⑧	小テ スト ⑨	合計	得点率	ABC 評価	ポ イン ト	評 定
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨															
配点	知識・技能	35	35	35	35	35	35	35			30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	545				
	思考・判断・表現	35	35	35	35	35	35	35			30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	545				
	主体的に取り組む態度	30	30	30	30	30	30	30													210				
	計	100	100	100	100	100	100	100	0	0	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	1300				
Aさん	知識・技能																				0	0.00	C	1	1
	思考・判断・表現																				0	0.00	C	1	
	主体的に取り組む態度																				0	0.00	C	1	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0				
Bさん	知識・技能																				0	0.00	C	1	1
	思考・判断・表現																				0	0.00	C	1	
	主体的に取り組む態度																				0	0.00	C	1	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0				
Cさん	知識・技能																				0	0.00	C	1	1
	思考・判断・表現																				0	0.00	C	1	
	主体的に取り組む態度																				0	0.00	C	1	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0				
Dさん	知識・技能																				0	0.00	C	1	1
	思考・判断・表現																				0	0.00	C	1	
	主体的に取り組む態度																				0	0.00	C	1	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0				
Eさん	知識・技能																				0	0.00	C	1	1
	思考・判断・表現																				0	0.00	C	1	
	主体的に取り組む態度																				0	0.00	C	1	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0				

1年間 総計	得点率	A B C 評価	ポ イ ン ト	五 捨 六 入 評 定
1000				
1000				
420				
2420				
0	0.00	C	1	1
0	0.00	C	1	
0	0.00	C	1	
0	0.00	C	1	1
0	0.00	C	1	
0	0.00	C	1	
0	0.00	C	1	1
0	0.00	C	1	
0	0.00	C	1	
0	0.00	C	1	1
0	0.00	C	1	
0	0.00	C	1	